

み

か

い

安住院便り (第4号)

平成12年1月1日発行
〒703-8236
岡山市国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

マンダラ(曼荼羅)①

皆さん、マンダラ(曼荼羅)を見たことがありますか。密教特に真言宗では、マンダラというと、仏様がいっぱい描かれた図を示し、胎蔵界・金剛界の二種類があります。マンダラという言葉の語源は、インドの古い言葉で「本質を持つもの」ということで、本質とはさとりを意味しますが、とにかく仏様が寄り集まり整然と並んだものがマンダラなのです。

胎蔵界のマンダラですが、大日如来を中心と整して、回りに如来・菩薩・明王などの仏様が整然と並んでおられます。同じ仏様はおられません。仏様だけではなく、いろいろな天の神さんなども描かれています。即ちこれは、大日如来を中心とした理想的な仏の世界を現しているのです。

このマンダラは、オーケストラに例えられ、様々な人が、曲のためにそれぞれのパートを受け持ち、それらが結合することにより見事な調和を保ち、素晴らしい響きを奏でられるのです。どのパートが欠けても出来上がりません。指揮者を中心に、全ての人が自分の持

ち場を十分に果たす。それが、重要な事なのにです。このことは、現代の私達の社会生活に置き換えるても、同じ事が言えるのです。この社会は全てマンダラなのです。



すが、その一つの原因は、そのようなところにあるのではないでしょう。考究の違いを乗り越え、いかにみんなでうまくやつていいか。けんかもあるでしょう。それが、許しあえて、調和を保つことが出来るのは、まず家族なのです。

中心の大日如来はお父さんでもお母さんでも構いません。大切なことは何かを、語り合ふことから始めてみましょう。

今は、家族がバラバラなのではないでしょうか。物質的に豊かになり、家族みんなが別々の部屋で、自分の好きなテレビを見たり、音楽を聴いたり、ゲームをしたり、それでは、家族も他人も同じではないでしょうか。家族という最小の社会をうまく構成してしまします。

國も、会社も、学校もそして皆様の家族もマンダラとして成り立つていています。そして、それらの家族・社会が素晴らしいマンダラを作らないと、社会そのものが壊れてしまうのです。

初観音法要のご案内

来る一月十七日(月曜)

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈祷並びに護摩供を厳修致します。

念頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。また、特別祈祷も申し受けますので、前日までにご連絡下さい。

阿弥陀如来像修復

安住院の鎮守は正八幡宮で、その鎮守堂は本堂の東奥の石段の先にあり、平成八年に修復致しました。

しかし、その八幡さまの本地である本尊阿弥陀如来像は、お顔も無惨に壊され、胴体のみが残り、お祀りにはとても絶えられない状態でした。お住まいは立派にしても、主がいない空き家では仕方有りません。しかし、新品を購入するわけにもまいりません。



客殿玄関改修

昨年秋より、客殿玄関を改修いたしております。江戸時代の古い様式ですので、歴史を残したまままでの修復に苦労致しておりますが、檀信徒の皆さまをお迎えするのに相応しさまをお迎えするのに相応しました。

お寺巡りも四ヶ寺だけでしたので、のんびりとした参拝となつてしましました。

やつと半分が終わつたというので、是非お気軽に参拝下さいと、まだ半分有るという想いが複雑に絡み合つて四国

金額には代え難い価値を失うため、京都の仏師による修復を決意しました。

その如来像が、昨年八月末に無事お帰りなりました。初観音が終わりましたら、鎮守堂に納めさせて頂きます。

そのお姿は、金箔仕上げで光り輝き、とても修復とは思えませんが、何処かに威厳と重厚さを残しておられます。

今年の十月十三・十四日 檀信徒の皆様と、四国八十八ヶ所靈場巡拝の第四回目を行いました。

四国八十八ヶ所靈場巡り

次回は四月十三日(木)・十四日(金)ですでの、皆様宜しくお願い致します。

